

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	142800021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成30年9月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東		
所在地	( 224-0006 ) 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-14-12		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・コロナウイルスの感染対策の徹底を行い、ご利用者様や職員共に感染者を出す事なく介護サービスを提供する事が継続されています。重度だった利用者様のご逝去されたり、特養へ移動されたりして、介護度も軽度化しています。そのような中でADLの低下を予防し、QOLも向上し、転倒からの骨折などの防止の為にレクリエーションに力を入れています。既存のレクリエーションはもちろんの事ですが、クリエイティブなレクリエーションを企画し脳を活性化し、以前の生活を再現することで足腰もしっかりし、転倒防止につなげています。畑や自慢のガーデンを利用者様と職員の手で1から作り出し、利用社様やご家族にも好評を得ています。ブログや通信でより日常の笑顔を多く発信し、ご家族様からも信頼と安心感を得られています。面会規制で直接会えないご家族とつなぐアイテムとなっています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月13日	評価機関 評価決定日	令和5年2月9日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

市営地下鉄「センター南」駅から徒歩約15分の、森のような都築中央公園のすぐそばにあります。法人は介護関係の事業所を全国に300ヶ所近く展開しています。

<優れている点>

法人理念を実現の為に事業方針があり、その具現化の為に現場での行動指針に落とし込んでいます。事業所は法人の理念・指針を基に、職員意見も採り入れて自主的な日常支援の心得を作っています。敷地内の空地に農園や花壇を作り、周りには利用者が名付けた手作り案山子の家族が立っています。職員と共に、頭と身体を使いながら作業をしています。獅子舞を招いたり、草取り・絵本読み・図書館案内のボランティアなど、地域との交流も活発です。コロナ禍でも近くの遊歩道を使って、努めて散歩に出ています。ブログを立ち上げ、事業所や利用者様の様子を発信しています。身近に生活の様子を見ることが出来るので、家族には大好評です。

<工夫点>

意思表示が難しい利用者にも職員が一方的に決めず、二択にして選んでもらい意思を尊重するように努めています。QRコードによるアプリを使って誤薬防止にも取り組んでいます。風呂が苦手な利用者には、入口に銭湯を模した（ゆ）のれんを下げたり、壁絵代わりに富士山の折り紙を置いて気分を和らげるなどの工夫をしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共有し実践につなげています。ホーム理念を理解し共有し、日々のレクリエーションへつなげています。	法人の理念・指針を基に、事業所全員で考えた「共に楽しく」を日常の支援活動の理念としています。利用者一人ひとりの状態を見ながら、出来る限り頭と身体を使いながらの生活を提案しています。職員は「感謝と誠実」を行動規範としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で制限がある為、施設内での交流は難しく、規制状況に合わせ参加できる範囲の交流をしています。散歩レクでご近所の方との会話、お正月にはどんど焼きへの参加をしました。獅子舞をホーム駐車場でを行い、近所の方の見学も有りました。草むしりなども積極的に参加して下さっています。	コロナ禍でも、安全を考慮しながら出来る限り外部との交流にトライしています。正月行事への参加や、遊歩道を使った散歩でご近所と挨拶したり、夏場の草取りボランティアの来訪もあります。図書館案内や、絵本の読み聞かせはコロナ後の楽しみです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	掲示板やSNSによる発信を積極的に取り組んでいます。感染対策中で準備段階ですが、自慢のガーデンでのご家族様との憩いの時間をもって頂いたり、地域の方との交流の場所となるような計画中です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	同様コロナ禍での影響で直接対面での開催は行なえていませんが、書面にて定期的な開催を行い、情報開示を行い、ご意見を頂きサービス向上に役立てています。季節や天候にも影響は有りますが、ガーデンでの開催もできないか検討しています。	コロナ禍により現状では対面開催は困難なため、地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族などの構成委員に対して活動報告を自宅などのポストに直接投函しています。月々の行事や事故ヒヤリハット事案、地域からの情報、シニアセラピーなど多岐にわたる事業所から地域への情報などです。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	同様コロナ禍で直接対面での開催は行なえていません。電話や書面にて情報交流を行っています。直接の訪問も検討中です。	コロナ禍の現状では横浜市との事務連絡関係は、法人のエリアグループリーダーが担当しています。都筑区役所は徒歩圏にあるので、今後は高齢者支援課・保険年金課などの関連窓口へ直接出向くことも検討中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会研修を行い、指針の整備と共に理解を深め職員間で共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を年に6回開催しています。委員会では法人から提供される不適切ケアの事例を教材にし、1時間程度ディスカッションを行い、最善と思われる対処方法をレポートとしてまとめることにより、身体拘束に関する理解を深めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会研修を行ない、具体的な事案を例にして、みんなで考え意見交換し勉強しあっています。職員間で周知し共有しています。	年に4回の虐待防止委員会を開催しています。身体拘束と同様、法人からの具体的な事例を教材に討議して、まとめを行います。虐待事例は職員の精神的・身体的不調時に起きやすいので、管理者は個々の職員の体調や職員間のストレスに気を配っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度については、資格取得時の講習会などで教えて頂く程度に止まっている。現在利用している利用者もいない為理解度は低い。日常生活自立支援は日々学び、ご家族様や医療関係者とも共有しご理解を得ながら取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時に十分な説明を行い、ご理解して頂くようにしています。入居後にも、いつでも疑問点にはお答えし不安を解消するようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご意向は、家族会の開催により情報開示と共に、運営に繁榮させています。利用者個人的な事にはケアプランに反映するようにしています。	家族会を年2回開催しています。月々の「一言通信」や事業所ブログで利用者や事業所の様子を発信しています。庭に「ホットタイム・ガーデン」という名のオープンルームを作り、利用者・家族・職員との話し合い、意見・希望を聴く場にする計画となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議を開催し、会社からの情報・事業所の運営に関わる情報を伝達し意見交換の場を設けています。会議以外でも提案や意見を聞き、検討し、反映させています。	毎月の全体会議の中で職員との意見交換の場を作り、行事やレクリエーションについて、職員の意見や提案を聴き事業に反映させています。会議以外にも、管理者は居室担当者の意見などを随時、個別の話し合いやLINE（SNSアプリ）で受け入れるように努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行い、希望や意向を聞ける環境整備に努めています。資格取得を含め向上心を持ち、働けるようシフト作りにも努めています。ガーデンを面談や休憩に使用しオンオフの切り替えにも役立てています。	年に2回は個別面談を行い、職員一人ひとりのスキルアップ計画や仕事の悩みを聴いています。処遇や職責での不公平感が生じないように、管理者は職員の能力と業績に応じた仕事を割り振るよう努めています。タブレットの活用で、事務の省力化を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍もあり、内外の研修に参加することが難しい為、事業所内で独自の勉強会を開いています。今後ズームなどの使用で研修の場を増やしていこうと考えています。	資格取得研修を受講しやすいシフトを考慮しています。事業所内部研修も行っていますが、研修の範囲やチャンスを広げる為のeラーニングの採り入れも検討しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、同業者との交流や活動は行なわれていない。感染状況に応じ活動への参加でサービスを向上させる取り組みをするよう努めていきます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴し知りえた情報を共有し安心して頂くべき関係性の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際やプラン更新時に、ご家族様の思い・要望などをお聞きする。また、ブログの発信や一言通信により日々のご様子をお知らせすることにより、信頼し安心して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人とご家族様のニーズの把握を行い、必要としている支援を見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で行う家事なども職員と一緒にを行い、一方通行にならず、共に生活する家族のような関係を気づいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	規制がある中で、ご家族様の思いをくみ取り絆を大切にしながら、出来得る限りの面会方法を考え、電話やフェイスタイムの使用などで、ご家族様と共に利用者様本人を支えていけるようにしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会規制中で、外出や直接面会は出来ないが手紙や電話など、来設時にはドア越しの面会などを取り入れています。遠方のご親族様やご友人様ともご家族様の協力もあり電話などでのお話が実現出来ています。	コロナ禍により、馴染みの人との出会いや離れた所への外出が困難な今は、得意な事や以前に習った事を楽しむように提案しています。漬物上手の人、お花が得意な人、畑の先生、カラオケ自慢などで一人ひとり自慢の腕を振るって楽しめるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションやイベントを通じた交流で孤立ない関係の構築を支援しています。性格などを考え座席替えなどを行い利用者同士も話が出るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご家族様より相談を受けたりしていましたが、現在満床維持により退居される方がいない為相談は有りません。今後損談支援が出来るようにして行きます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を伺い、自宅での生活習慣の把握を行い可能であることは継続できるようご家族様とも連携し検討している。	入居時に聞き取った利用者の思いをベースに、日々の言葉や仕草から情報を追加しています。希望の多い、美味しいものを食べたいこと、外へ行きたいことには、可能なかぎり対応しています。意思表示の難しい人には選択しやすいように二択から選んでもらうようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に、ご家族様やご本人より暮らし方・生活歴などをお聞きしサービス利用の有無を踏まえ、把握している。入居後も変化に応じご家族様とも話し合う事をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々接することで状態の変化を把握し共有し残存機能を最大限活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスにより分析を行い、ご家族や医療関係との意見やアイデアに本人の思いを合わせ、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はモニタリングによる利用者の状況把握をもとに、定期的なケアカンファレンスを経て、大きな変化がないときは6ヶ月ごとに作成しています。介護計画は医師、看護師の意見と家族の希望を反映して作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に残し情報共有・実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ可能な限り、柔軟に支援サービスの提供に取り組んでいる。グループホームではの概念にとらわれないよう、周囲の方へもご意見を頂きながらとりくんでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	災害時の避難場所の把握。今は行動制限があるが、図書館の貸し出しの利用などで楽しんで頂くようにしている。図書館からの貸し出しで紙芝居など。畑での作物作りで野菜作りやぬか漬け作りなど。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医による定期診察を受けています。適宜必要時の対応をして頂き24時間電話での相談や指示を頂き、安心して対応して頂いています。	内科医は月2回の往診、看護師は毎週の訪問で健康管理をしています。歯科医は月2回の往診、歯科衛生士は月4回の訪問で指導を受けています。薬は一包装して納品され、服薬管理システムで誤薬防止と服薬履歴管理に努めています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、看護師の訪問により相談や状態の変化を報告し指示を頂いています。必要に応じ医師へとつないで下さり、悪化しないよう連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリーの作成や退院時のメンテラに参加させて頂くなどを行い、電話での状態把握を行う。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師から家族への状態説明のうえ、ご家族様の意向をお聞きし、ご意向に沿えるような心穏やかに過ごして頂けるケアに取り組んでいます。こまめな状態をご家族へ伝えると同時に面会により一緒に過ごす時間を作させて頂くよう配慮しています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明しています。重度化した場合は医師の判断によって家族に説明し、意向を確認の上で看取りの体制に入ります。看取りの研修は毎年実施して職員のレベルを維持し、看取後は職員の心のケアにも配慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の周知を行っています。応急手当や初期対応訓練・AED操作訓練などを行い実践力の強化をします。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練実施しています。地域との協力体制も築いています。訓練日には連絡をし参加を呼びかけています。コロナ禍での訓練開催時には範囲縮小しています。	災害想定は火災・地震・水害とし、訓練を実施しています。防災訓練では地域の住民や消防団の参加も得て、夜間の火災など毎回状況を設定して行っています。備蓄品の管理を業者による管理から事業所管理に変更し、管理の責任をより身近なものにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴時・便困者や不穏者など申し送りの際の個人名の配慮は日頃から周知徹底を心掛けています。	人格の尊重のために利用者一人ひとりの性格や価値観を把握するよう努めています。その上で常に自己決定できるように二択で聞くなどを実践しています。特に言葉かけを心がけ、一人ひとり利用者の好みで苗字か名前に「さん」をつけて呼んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に自己決定できるような言葉かけをしています。お茶の時間の飲み物や散歩への参加など。ADLの状態に合わせ二択にするなどの働きかけもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを最優先にし可能な限り希望に沿った支援を行っています。できない事情がある時は相談し、どうするか話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問理美容の利用。ご自分で日々衣類を選び、洗顔整容も自分で行えるよう見守りを行っています。洗顔後の化粧水など整容も自分でされています。レクでメイクアップやネイルの実施には生活歴もあり大変喜ばれています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けなど職員と一緒にしています。レクなどで、ご希望のメニューなどを話し合い、楽しんで頂ける様な支援をしています。	調理済食材を外部業者に委託しています。職員が温め盛り付けを行い、みそ汁とご飯を作って提供しています。敬老の日などの行事食や郷土料理を月1～2回提供し、おやつはリクエストに応えたものを作り、楽しめる工夫をしています。利用者は下膳、食器洗いに参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量を把握し無理のない良や習慣に応じふりかけなどの好みの物を付け合わせたり、お好みの飲み物などの把握をし適量接種の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科との連携により、一人ひとりの力に応じたケアを行っています。義歯は装着者は全員夜間お預かりし、洗浄液にいれ清潔の維持をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のリズムや能力により適宜声掛けを行い、自立に向けた支援を行っています。全介助の方は定時排泄により清潔の保持をしています。	利用者の排泄パターンを把握し、自主性を尊重しつつ適宜声かけをしてトイレ誘導しています。食事以外にも定期的に乳酸菌飲料を摂取しています。排便がスムーズになるように、コロナ禍にあってもできるだけ散歩や、畑仕事をするなど体を動かすようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩やレクなどの体操で身体を動かし、必要な水分量の摂取の声掛けを行っています。適宜乳製品を取り組む工夫もしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望の時間帯をお聞きするなどし、無理強いたくなく楽しめるようしています。入浴時間や入浴のリズムも生活歴を取り入れるようにしています。拒否のある方などは入浴剤の使用や、時間や言葉を変えるなどの工夫をしています。	入浴は週に2~3回、利用者の体調や希望に配慮し柔軟に対応しています。1階浴室にはリフトイスを設置し、車いす利用者も浴槽に浸かることができます。浴室前に「ゆ」と書かれたのれんを吊るしたり、壁絵代わりに富士山の折り紙を貼ることで銭湯のような気分になるような演出もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ここの状態やその日の状態により、臥床時間を設けるなどしています。昼間の臥床時間の把握を行い、昼夜逆転にならないような工夫もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師との連携で薬の用法を許共有しています。変更があった際には注意点観察ポイントなど情報共有確認をしっかりと行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や能力を活かしたレクリエーションの取り組みや嗜好品や楽しい事を取り入れたレクリエーションの取り組みを行っています。気分転換に散歩やガーデンでの外でのおやつタイムなどの支援を行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で希望通りの外出は出来ていません。周辺の遊歩道の散歩で季節を感じたり、近くのお寺で紫陽花や菖蒲の花などの見学など行っています。ご家族からも希望はあるが現状の理解は得られています。方法の検討を行っていきます。	コロナ禍の制限のある中、散歩の継続を大事にしています。近隣の遊歩道や土手沿いの道路を散歩しています。敷地内の空き地では利用者も手伝いながら花壇や畑を作り、周りには手作りの案山子を立てるなど楽しみながら外気浴をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居の際、金銭を持ち込まないよう話していますので、所持はしません。買い物レクなどでコンビニや自販機で好みの物の購入のみとなっています。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望や遠隔地に在住の親族様やご友人様とは電話でのお話は可能となっております。子供様との話希望も通話できるよう支援しています。	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節や行事に合った装飾を行い、花や壁飾りで季節を感じて頂いています。浴室・トイレなど不快なく使用できるようにしています。居室内の清掃には本人様も掃除機掛けをされたりしています。空調に配慮し居心地よく過ごせるよう配慮しています。	明るいうりビングにはレクリエーションで作った作品を飾っています。イベントの際に撮影した利用者の写真を多く飾り写真を見ながら楽しかった思い出を振り返ることができます。外の畑の隣には「オープンガーデン」があり家族との面談や外気浴に活用されています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを使用したり、席を移動して利用者様同士お話を自由にされたり、ご自分の気に行った雑誌を読まれたり、自由な時間には思い思いの時間を自由にお過ごしいただいています。	
54	23	○居心地のよく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とも相談し写真や飾り物、テレビ、クッション、毛布などの持ち込みで以前の生活が再現でき居心地よくなるよう工夫しています。コロナ禍でご家族が居室に入れない為清掃など注意しています。	居室にはベッド、エアコン、クローゼット、整理ダンスが備わっています。利用者は馴染みの品物や写真などを自由に持ち込み、居心地の良い居室になるようにしています。居室の清掃は基本的に本人・家族が行い、リネン交換は居室担当職員が行っています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線の確保や「居室」や「トイレ」など分かりやすくなるよう表示をし、自立した生活がおくれるよう支援しています。	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共有し実践につなげています。ホーム理念を理解し共有し、日々のレクリエーションへつなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で制限がある為、施設内での交流は難しく、規制状況に合わせ参加できる範囲の交流を指定します。散歩レクでご近所の方との会話、お正月にはどんど焼きへの参加をしました。獅子舞をホーム駐車場で行い、近所の方の見学も有りました。草むしりなども積極的に参加して下さっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	掲示板やSNSによる発信を積極的に取り組んでいます。感染対策中で準備段階ですが、自慢のガーデンでのご家族様との憩いの時間をもって頂いたり、地域の方との交流の場所となるような計画中です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	同様コロナ禍での影響で直接対面での開催は行なえていませんが、書面にて定期的開催を行い、情報開示を行い、ご意見を頂きサービス向上に役立てています。季節や天候にも影響は有りますが、ガーデンでの開催もできないか検討しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	同様コロナ禍で直接対面での開催は行なえていません。電話や書面にて情報交流を行っています。直接の訪問も検討中です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会研修を行い、指針の整備と共に理解を深め職員間で共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会研修を行ない、具体的な事案を例にして、みんなで考え意見交換し勉強しあっています。職員間で周知し共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度については、資格取得時の講習会などで教えて頂く程度に止まっている。現在利用している利用者もいない為理解度は低い。日常生活自立支援は日々学び、ご家族様や医療関係者とも共有しご理解を得ながら取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時に十分な説明を行い、ご理解して頂くようにしています。入居後にも、いつでも疑問点にはお答えし不安を解消するようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご意向は、家族会の開催により情報開示と共に、運営に繁栄させています。利用者個人的な事にはケアプランに反映するようにしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議を開催し、会社からの情報・事業所の運営に関わる情報を伝達し意見交換の場を設けています。会議以外でも提案や意見を聞き、検討し、反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行い、希望や以降を聞ける環境整備に努めています。資格取得を含め向上心を持ち、働けるようシフト作りにも努めています。ガーデンを面談や休憩に使用しオンオフの切り替えにも役立てています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍もあり、内外の研修に参加することが難しい為、事業所内で独自の勉強会を開いています。今後ズームなどの使用で研修の場を増やしていこうと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、同業者との交流や活動は行なわれていない。感染状況に応じ活動への参加でサービスを向上させる取り組みをするよう努めていきます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴し知りえた情報を共有し安心して頂くべき関係性の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際やプラン更新時に、ご家族様の思い・要望などをお聞きする。また、ブログの発信や一言通信により日々のご様子をお知らせすることにより、信頼し安心して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人とご家族様のニーズの把握を行い、必要としている支援を見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で行う家事なども職員と一緒にを行い、一方通行にならず、共に生活する家族のような関係を気づいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	規制がある中で、ご家族様の思いをくみ取り絆を大切にしながら、出来得る限りの面会方法を考え、電話やフェイスタイムの使用などで、ご家族様と共に利用者様本人を支えているようにしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	面会規制中で、外出や直接面会は出来ないが手紙や電話など、来設時にはドア越しの面会などを取り入れています。遠方のご親族様やご友人様ともご家族様の協力もあり電話などのお話が実現出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションやイベントを通じた交流で孤立ない関係の構築を支援しています。性格などを考え座席替えなどを行い利用者同士も話が出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご家族様より相談を受けたりしていましたが、現在満床維持により退居される方がいない為相談は有りません。今後損談支援が出来るようにして行きます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を伺い、自宅での生活習慣の把握を行い可能であることは継続できるようご家族様とも連携し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に、ご家族様やご本人より暮らし方・生活歴などをお聞きしサービス利用の有無を踏まえ、把握している。入居後も変化に応じご家族様とも話し合う事をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々接することで状態の変化を把握し共有し残存機能を最大限活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスにより分析を行い、ご家族や医療関係者意見やアイデアに本人の思いを合わせ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に残し情報共有・実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ可能な限り、柔軟に支援サービスの提供に取り組んでいる。グループホームではの概念にとらわれないよう、周囲の方へもご意見を頂きながらとりくんでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	災害時の避難場所の把握。今は行動制限があるが、図書館の貸し出しの利用などで楽しんで頂くようにしている。図書館からの貸し出しで紙芝居など。畑での作物作りで野菜作りやぬか漬け作りなど。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医による定期診察を受けています。適宜必要時の対応をして頂き24時間電話での相談や指示を頂き、安心して対応して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、看護師の訪問により相談や状態の変化を報告し指示を頂いています。必要に応じ医師へとつないで下さり、悪化しないよう連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリーの作成や退院時のメンテラに参加させて頂くなどを行い、電話での状態把握を行う。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師から家族への状態説明のうえ、ご家族様の意向をお聞きし、ご意向に沿得るような心穏やかに過ごして頂けるケアに取り組んでいます。こまめな状態をご家族へ伝えると同時に面会により一緒に過ごす時間を作って頂くよう配慮しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時の周知を行っています。応急手当や初期対応訓練・AED操作訓練などを行い実践力の強化をします。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練実施しています。地域との協力体制も築いています。訓練日には連絡をし参加を呼びかけています。コロナ禍での訓練開催時には範囲縮小しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴時・便困者や不穏者など申し送りの際の個人名の配慮は日頃から周知徹底を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に自己決定できるような言葉かけをしています。お茶の時間の飲み物や散歩への参加など。ADLの状態に合わせ二択にするなどの働きかけもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを最優先にし可能な限り希望に沿った支援を行っています。できない事情がある時は相談し、どうするか話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問理美容の利用。ご自分で日々衣類を選び、洗顔整容も自分で行えるよう見守りを行っています。洗顔後の化粧水など整容も自分でされています。レクでメイクアップやネイルの実施には生活歴もあり大変喜ばれています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けなど職員と一緒にしています。レクなどで、ご希望のメニューなどを話し合い、楽しんで頂ける様な支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量を把握し無理のない良や習慣に応じふりかけなどの好みの物を付け合わせたり、お好みの飲み物などの把握をし適量接種の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科との連携により、一人ひとりの力に応じたケアを行っています。義歯は装着者は全員夜間お預かりし、洗浄液にいれ清潔の維持をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のリズムや能力により適宜声掛けを行い、自立に向けた支援を行っています。全介助の方は定時排泄により清潔の保持をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩やレクなどの体操で身体を動かし、必要な水分量の摂取の声掛けを行っています。適宜乳製品を取り組む工夫もしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望の時間帯をお聞きするなどし、無理強いくなく楽しめるようしています。入浴時間や入浴のリズムも生活歴を取り入れるようしています。拒否のある方などは入浴剤の使用や、時間や言葉を帰などの工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ここのジョイタイヤその日の状態により、臥床時間を設けるなどしています。昼間の臥床時間の把握を行い、昼夜逆転にならないような工夫もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師との連携で薬の用法を許俣しています。変更があった際には注意点観察ポイントなど情報共有確認をしっかりと行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や能力を活かしたレクリエーションの取り組みや嗜好品や楽しい事を取り入れたレクリエーションの取り組みを行っています。気分転換に散歩やガーデンでの外でのおやつタイムなどの支援を行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で希望通りの外出は出来ていません。周辺の遊歩道の散歩で季節を感じたり、近くのお寺で紫陽花や菖蒲の花などの見学など行っています。ご家族からも希望はあるが現状の理解は得られています。方法の検討を行っていきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居の際、金銭を持ち込まないよう話していますので、所持はしません。買い物レクなどでコンビニや自販機で好みの物の購入のみとなっています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望や遠隔地に在住の親族様やご友人様とは電話でのお話は可能となっています。子供様との話希望も通話できるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節や行事に合った装飾を行い、花や壁飾りで季節を感じて頂いています。浴室・トイレなど不快なく使用できるようにしています。居室内の清掃には本人様も掃除機掛けをされたりしています。空調に配慮し居心地よく過ごせるよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを使用したり、席を移動して利用者様通しお話を自由にされたり、ご自分の気に行った雑誌を読まれたり、自由な時間には思い思いの時間を自由にお過ごしいただいています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とも相談し写真や飾り物、テレビ、クッション、毛布などの持ち込みで以前の生活が再現でき居心地よくなるよう工夫しています。コロナ禍でご家族が居室に入れない為清掃など注意しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線の確保や「居室」や「トイレ」など分かりやすくなるよう表示をし、自立した生活がおくれるよう支援しています。		

2022年度

事業所名 グループホームみんなの家・横浜荏田東

作成日：2023年 2月 11日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2.2	敷地内の空間を利用法を考へ お風呂・運動を楽しく工夫	空スペースの有効活用 現在使用の空間の他のスペースを 利用者と地域と共同の利用を考へる。	畑とガーデンの充足 庭の整備。地域の方の利用。 ドッグカエの誘うための。パネル交換	6ヶ月
2	3	運営推進会議	コロナ禍で対面できずお話しが 直接意見交換を行う。	定期会議への参加の呼びかけ。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月